

過激教育工場

作 切傷甲



近年 若者達による
反道徳・反社会的な
振る舞いが社会問題と
なっている

その被害は
無視できない
規模へと拡大

大人は彼らを恐れ
過激で即効性のある
解決法を求めた

苦めを

「危険人格児童
再教育センター」

そして遂に
某県某所にて
恐ろしい施設が
建設される

市民からの通報により
危険人物と判断された
若者たちがここに
収容されるのだ

今日もここに
三人の美少女が
連行された

これから彼女らは
再教育が完了したと
見なされるまで
恥辱と苦痛にまみれた
日々を送るのである……



第1収容者
「貝原 ケイコ」

知能指数200を
超える超天才児
それが彼女だ

その知能の高さ故に
周囲の人間を見下し
敬意に欠く態度を
取り続けた

頭の悪い者は
人間と見做さない
と言う選民思想が
危険因子として
判断されたのだ

「わ 私の頭脳は
国の宝ですよ!」

「私に何かすると言う事は
つまり 国益に反すると
言う事であって……!」



「国の役に立つねえ
べつに頭じゃなく
他の部位でも役に
立てるんじゃない？」

「例えば、その
可愛いおまんこ
とかさ！」

「うう……」

施設に收容された
少女は、まず最初に
全裸にさせられる

その後、少女らの
性格に応じて専用の
矯正カリキュラムが
実施されるのである

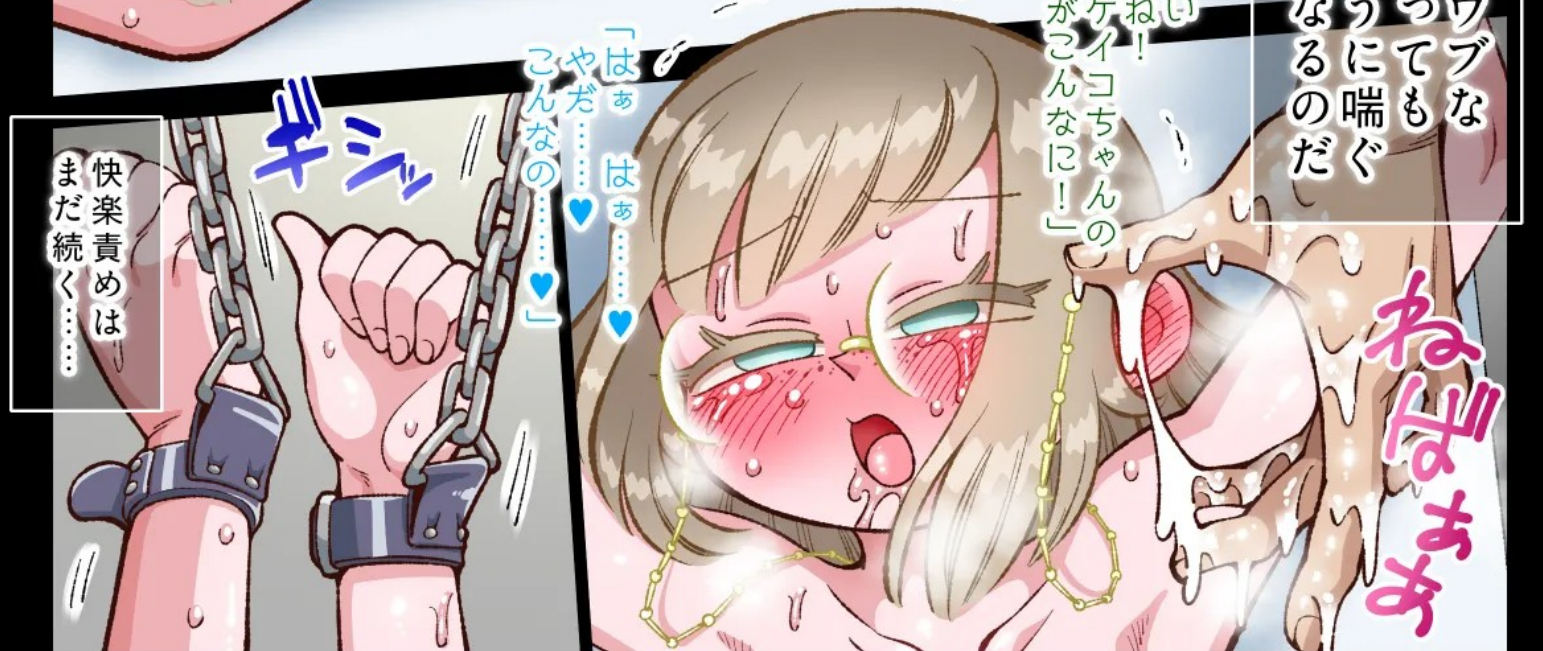
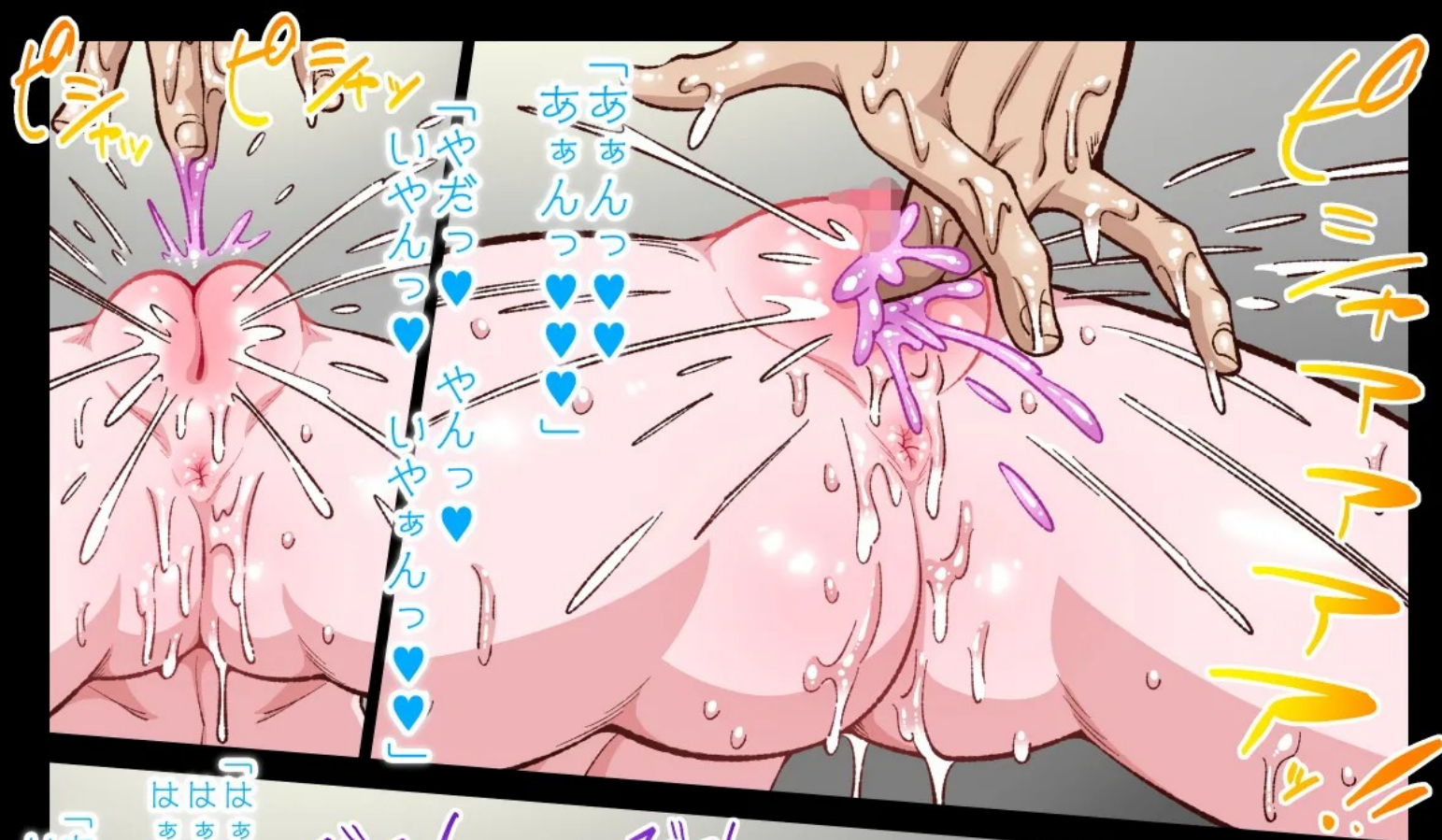
「おっ 処女じゃらん！
ちゃんと膜が付いてて
偉いねー！」

「セックス経験は
無くてオナニーで
破っちゃう子も
居るからね」

「ううう……
やめて……！」

ティ
ン

く
ちゅ



どれだけウブな
少女であつても
娼婦のように喘ぐ
敏感娘となるのだ

「いっぱい
イッたね！
ほら ケイコちゃんのお
つゆがこんなに！」

「はあ はあ……
やだ……
こんなの……」

「ああんっ……
いやあんっ……」

快樂責めは
まだ続く……

ビクッ!

「あぁっ♡ あぁんっ♡ あぁんっ♡ あぁんっ♡ あぁんっ♡」

「さくで次は
お尻の穴を使って
気持ちよくして
あげるからね」

「お
お尻っ!?
やだっ
やんっ!」

にゅにゅにゅにゅ

「あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡」

排泄にしか
使ってこなかった
この穴も 今では
少女の腰を跳ねさせる
性感帯の一つである

天才とは言え
所詮は小学生
肛門を使った
セックスなど
思いもよらない

ケイコの知性は
未知の刺激に
鈍らされていく

にゅにゅにゅにゅ



イミマアア!!

「はひっ
あひっ
きもひっ」

「いくっ
はへひっ」

「いぐっ
ぎもぢくなるうっ」

いっ
いっ
いっ

アウウ...

ヒシッ

ヒシッ

「はひっ
はひんっ」

だがまだ解放の時では無い
むしろこれからが本番
なのであった...

少女はこの快楽を
知ってしまった
たとえ施設から
解放されても
再びこの刺激を
求めるだろう



めちゅ....

「ケイコちゃんのおマンコはもうすっかりホクホクだね....」

「おチンチン入れてもすんなり入っちゃうだろぅね...!」

「あっ♡ あっ♡
だだめっ♡..
しょじょっ♡..
だめ...♡♡♡」

「あああああ~~~~♡♡♡♡♡」

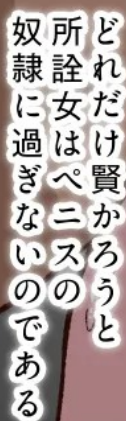
「おチンチン♡♡♡♡♡
入っちゃううう♡♡♡♡♡」

施設収容から3日
絶頂回数116回
貝原ケイコは遂に
処女を喪失した

丹念な愛撫により
柔らかくなつた処女膜は
一切の抵抗無く
ペニスを受け入れた

ずんずん

ニギニギ
ブチリ





「おおっ……♡
んおお……♡
しゅごおお……♡」

「せーえきつ♡
しゅごおお……♡
しきゅうに
しみこむ……♡」

どぼり、どぼり、



「おっ♡
ちんぽっ♡
ちんぽっ♡
いっちや
やだあつ♡」

どぼり、どぼり、



「あくあ すっげえ顔！
とても小学生とは思えねーな！」

「んへえ……♡
ちんぽおお……♡」

「そんなにチンポが
欲しいならいくらでも
くれてやるよ！」

どぼり、どぼり、

「あぁっ♡
ぎもぢいっ♡♡♡
ぎもぢいっ♡♡♡」

ケイコへの
人格矯正は
まだ終わらない

「はぁ♡ はぁ♡
ちんぽぁぁ……♡♡♡」

「あひいっ♡♡♡♡♡
おちりいっ♡♡♡♡♡」

「おっ♡んおっ♡
びゅーびゅーいっ♡
子宮タプタプマイっ♡♡♡」

セックスの事以外
全く興味を持たない
完全な色情狂に
なるまで処置は続く



施設への収容から
10日が経過……

「おおっ♡
ちんぽ♡
おちんぽっ♡」

「おちんぽっ♡♡♡
おちんぽー♡♡♡
ちんぽちんぽ♡♡♡
ちんぽおお♡♡♡」

「ちんぽおお♡♡♡」

もはやまとまな
会話すら出来ない程
ケイコの知能は低下

自分が欲しい物を
ひたすら連呼する
だけの惨めな生物へと
なり下がっていた



検査の結果
脳に不可逆な
変化を確認

「おひいつ
んはひいつ
ほひいんっ
っ♡♡♡」

人格矯正は
完全に成功した

貝原ケイコは以後
性奴隷として
社会の役に立つ事が
決定したのであった

「ちんぽっ♡♡♡
せつくすっ♡♡♡
せつくすちんぽっ♡♡♡」

「おまんこせつくすっ♡
おまんこあなるっ♡
あなるちんぽっ♡
ちんぽまんこっ♡♡♡」

「せつくすーっ♡♡♡
れいぷせつくすーっ♡♡♡」

第2収容者
「春野ホナミ」

その愛嬌と
豊富な肉体で
男に媚びを売り
楽な人生を
送り続けた

だがその裏では
男を嘲笑っており
自分に近づく者を
何人も貢がせ破産
させた悪女である

「うひょー！
ホナミちゃん可愛いー！
今日から毎日たっぷり
愛を送ってあげるねー！」

「うーうそでしょ……？
何かの冗談よね……？」

ヒッ！

僕の愛は冗談
なんかじゃない

「きゃああああ!!」

「ぎゃー!!
さわんなポケーッ!!」

「大丈夫！
ここでの暮らしも
楽しいよ！」

「アタシはただ楽しく生きてただけなのに！」

「やだっ！ 来ないでっ！
こんなのってないよ！」

てとっ

「ひゅっ！
いやっ！
誰が助けて
ええっ！！
いやっ！
」



つーかゴムしてねーじゃん!!
妊娠しちゃうっ! やめろっ!!
やめろって言ってんだよー!!」

妊娠中もレイプは
継続して行われる

健康的な母子の発育は
適度な運動(レイプ)
によって育まれるのだ

ばんばんばん

「もう母乳が出るよ！
体はすっかりママだね〜！」

「な　なんで……
まだ産んでも
いないのに……」

「あっ！ あっ！
やだっ
いやだっ！」

「お腹重たいのっ！
や　休ませてよあつー！」

やっ

プチャ

プチャ

はちん

「うっ……
うっ……」

どろろ

どろろ

はちん

「すっかりボテ腹になっただな。昔が懐かしいよ」

「うっ
うっ
うっ……」

そして
施設収容から
276日後……



だーっ！
だーっ！

「はーっ！
はひーっ！
うぐひっ！」
「ぐっ ぐるじっ……
お おなか痛いっ！
赤ちゃん
暴れてるうっ……！」

「おい
赤ちゃん！
出ておいでー！」

「ミルクいっぱい
あるよー！
もしもーし！」

アッアッ！

アッアッ！

どちゃ！
どちゃ！
どちゃ！

ぽんぽん

「も もう生まれるからっ！
セックス終りにしてえーっ！！」

どちゃ！

どちゃ！
どちゃ！

どちゃ！



「お！ 破水したね！
遂に赤ちゃんが
出て来るよ！」

「ひ
ヒヒ……！
あ
赤ちゃんっ……
赤
ちゃん
出てくる……！」

「んおおっ！
あかちゃんんっ！！」

びん

「んぎいいいっ！！」

びん

ブリュ
ブリュ
ブリュ

ブリュ
ブリュ
ブリュ

ワタ
ワタ

「おおおおっ！
あ
あかちゃんっ
あか
あ
あかんっ！」

ひゅっ

ひゅっ

みだ
みだ

ズリ・ズリ・アアアアアア

「生まれりゅうつ!!
出てくりゅうつ!!」

ズリ

ズリ

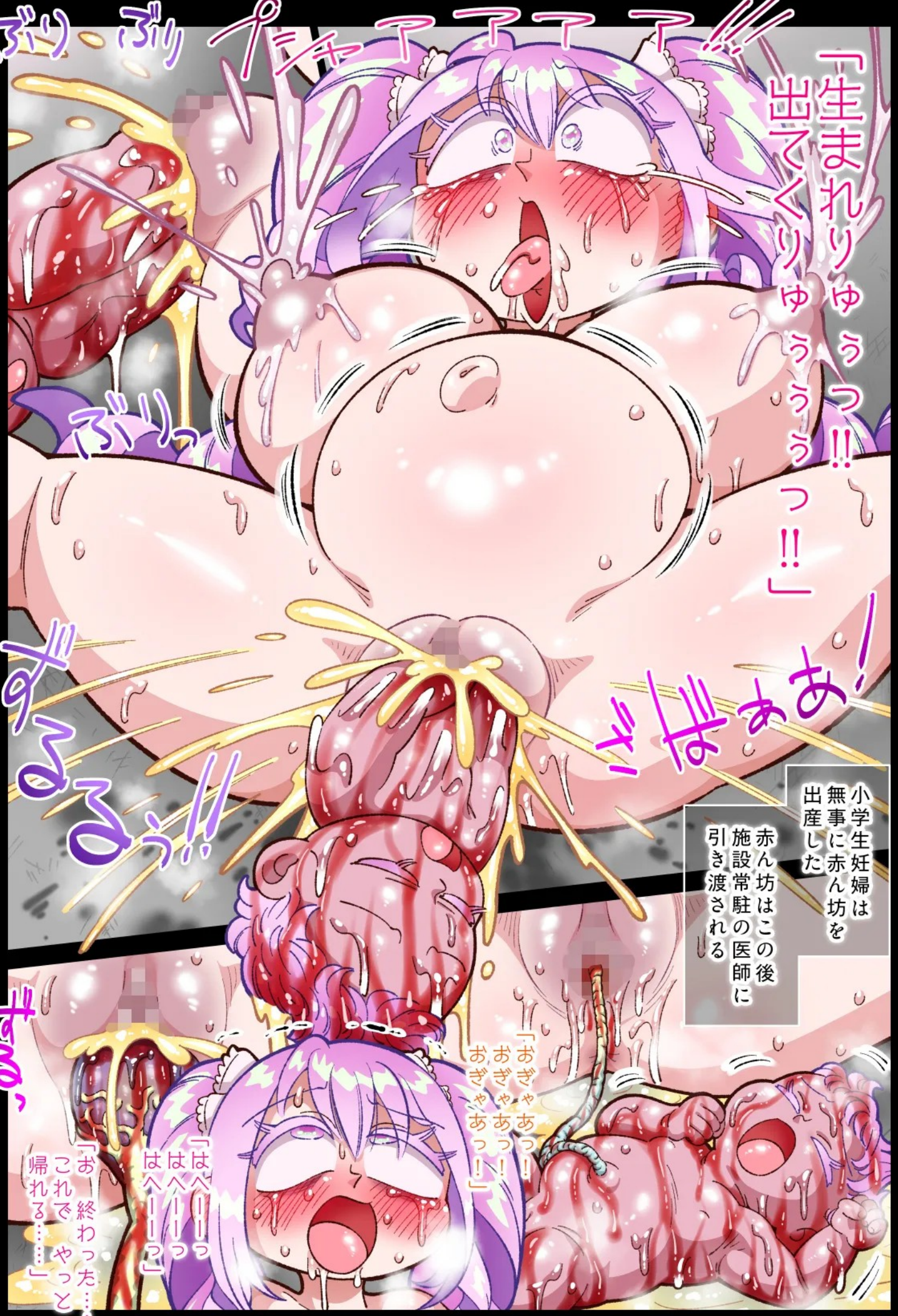
ハハハハ!

小学生妊婦は
無事に赤ん坊を
出産した
赤ん坊はこの後
施設常駐の医師に
引き渡される

「おぎやあつ!!
おぎやあつ!!
おぎやあつ!!」

フェ

「はへへへ
はへへへ
はへへへ」
「おー終わった
これでやっと
帰れる……」





なお 彼女は勘違い
しているようだが
これでカリキュラムが
終了したわけでは無い

最低でも10人は出産し
少子化対策に貢献
してもらおうのである

勘違いしたデブメスガキを
改心させるには
1回の出産では足りないのだ

ずるずる

ぽん



「う
ウンでしょ？」

「ひっ！」

め



「うげえ
ツツツ!!」

ぽん!!

「テムエはこれからモ
ガキこさえまくって
産み続けるんだよ！」

「そ
あ そんな
あれだけ
頑張ったのにつ
」

「出産直後に
妊娠しろおお!!」

「ぎゃばげええっ!!」

「はひ……
はひ……
しよ……
しよんな……
うしよれしよ……」



「しぬ……
 孕み殺される
 よおお……」

ずるるる...



「んぐうつ！」



「うう...うう...」

アホッ



「男のひと...
馬鹿にしましえん...
お金 騙し取りましえん...」

「ゆるひへ...
も悪い事
しましえん...」

ぴん...
ぴん...

しかし残り9回の
出産が済むまで
施設からの退所は
認められない

春野ホナミの
人格矯正は
ひとまず完了

フッ

ちなみに
この種付けによって
ホナミは2度目の
妊娠をしたのであった
この受精率であれば
退所は案外早い
かもしれない...

第3収容者
「宝木 チサ」

彼女は第一級の
危険人格の持ち主
である事が調査で
判明している

彼女の父は
いわゆる
権力者である

その権威を利用して
沢山の子供達に
残酷な暴力を
振るい続けていた

彼女が大人になれば
その脅威は社会全体に
及ぶであろう

そのような事を
防ぐためには
どれだけ恐ろしい
行為でも当施設では
許容されるのである

「あ
アタシが誰だが
判ってるの!」

「こんな事をして
お父様が黙っちゃ
いないわよ!」

「アンタなんか
一族郎党
山に埋めて
やるんだから!」



「ああ!?
ンだと
コラァッ!!」

グッ!

「げっー」

「えっ……?
な 殴った!?」

ぽ

「……こ
このヤロオ……!」

「殺すっ……!!」

×
×
×

「ぐぺっ!!」

「殺すだァ!?
俺がデメエを
殺すんだよ!!」

「ゲボエッ!!
おげえええっ!!」

ス
ス
ス
ス

「はあ」

「げほっ!!
げほっ!!
ぺっぺっ!!」

「な なにすっ……
あ アタシの
お腹殴るなんて……!!」

「て テメエっ!!」

絶対殺す!!
お父様に言っ
て百回殺して
もらうからな!!」

「だからよお!!」

グ
ニャッ!!

「俺が
殺すんだよ!!」

「ぐべっ!!」

バキッ!!

「お前が殺され
るんだよッッ!!」

「ぶぎゃっ!!」

グキッ!!

「ズぱっ……」

コン!

「あっ あっ!!
うしょっ!?」

「アタシの歯っ
生え変わった
ばかりなのにつ!!」

「なんか文句
あんのか?」

「ここでお前は死んで
成長が止まるんだから
よお……!!」

「う
うぐっ
ぐるじ……!!」

「オラッ……!!
死ねっ……!!
死ねっ……!!
ぶっ殺されろ!!」

宝木チサへのカリキュラムは
「徹底的な暴力による
服従精神の植え付け」である

このカリキュラムでも
矯正不可と判断された
場合……

殺害もやむなし
とされている

「い
息が……
できな……」

「んおっ
んおお……」

施設所員は全員
子供の未来を
第一に考えている

その為 殺処分を
回避する為に
必死になって矯正を
試みるのである

「お？ 死んだか？
いや テメエみてーなクズが
この程度で死ぬワケ
ねえよな？」

「……………」

だぐあー

ボトッ
ボトッ

「ほくら
起きろ！」

「生き返れ！」

やっ

やっ

「まったく
寝たふりか？
仕方がねえ
起こしてやると
するか！」

キッ!!

「オラァッ!!」

「ぎっ!」

「ぎゃあああ!!
指があああ!!」



「起きたか？
じゃあ眠気覚ましに
もう一本っ！」

「痛いっ 痛いっ！
痛いよおおっ！」

「ヤメロオオオ!!」

「あだだっ！」



「何しやがる
クソガキい!!」

はっ



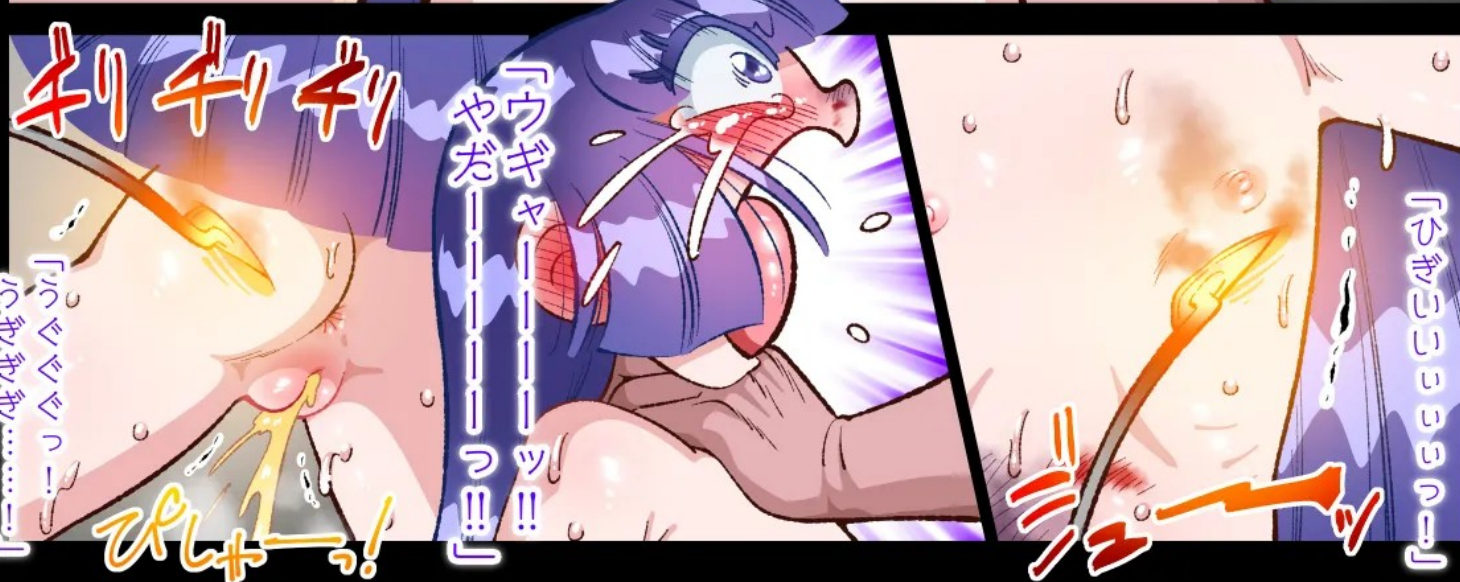
「ナメたまね
しやがってええ！」

「コイツをデメエの
真っ白い肌に
押し付けたり……」

「さぞ綺麗に
跡が付く
だろうなあ！」

「ま まさかっ
そんな……！」

「えっ な何!?
何してるの!」



「あっ！ うあっ！
やだ！ ちよっ！
いやだっ！」

「お顔は
やだっ！
いやだっ！」

ビュウウウウ！！

「ああああああっ！！」

時には単純な暴力では無く
精神的なダメージも
与えると効果的である

抜歯や肌の火傷等の
後に残り続ける傷は
少女の心を傷つける
のに特に有効だ

「あっ
うあっ
お顔っ
あっ
うあ
お顔おあ……」

「跡残
つちやう
跡残
つちやう
よお……！」

ジュン

パキ

残酷に思われるだろうが
黄色信号が灯った少女の
命を救う為には手段を選
んではいけないのだ

「あくあ
ぶっ殺してえっ！！」

「火傷ごときでこんなに
良い声で鳴いてくれるなら
死ぬ寸前はどれだけエロく
なっちゃうんだろっ！」

「うえっ！
いいやだっ！
もあやだっ！！」

「ぶっ殺されろ!!
死ねえええ!!」

「ぎゃひいっ!!」

「ぎゃあああ!!
いだいっ!!」

「ぶびっ!!」

「ギョッ!!」

「ひゃぎゃっ!!」

「ガッ」

「あわ あわわ……
こころしやれりゃ……
こころしやれちゃう……」



「やっと気づいたか!?
おれが人殺しだって
事がよお!!」

「ごへっ!!」

「シッ!!」

「ああっ!
やめてっ
やめてく
ださい
いいいっ!!」

「うぎ
ぴい
いい
いっ!!」

「ギ
ギ
ギ!!」

「ごへっ!!
がへっ!!
げぺっ!!」

「今死ね!
これで死ね!
絶対死ね!!」

「Fano...」

「はあっ...
はあっ...
あうう...」

「ズン!!
ズン!!」



「うう あうう ぐすっ ぐすっ
おお お願ひしますっ……
も お 許して下さい……」

「お お父様には言ひませんから……
あ アタシに悪い所があるなら
直しますから……ぐすっ ぐすっ」

真に受けてはいけない
これはこの手の少女の
常套句である
こちらを油断させて
虎視眈々と反撃の
機会を伺っているのだ

「そこまで言うなら
許してやっても
いいかなア？」

「デメエをいたぶってたり
チンポ起っちまってよお
レイプさせてくれるんなら
許してやっても良いぜ？」

「選ばせてやるよ
レイプと暴力
どっちが良い？」

「れ……
レイプで……
お願い
します……」

「いいぜえ
そんなにレイプ
されたいなら……」

「……」

「思う存分レイプしてやるよオ!!」

「ぎゃっ!!」

「自らねだるほどチンポが好きだなんて気づかなかったぜ!」

「もっと早く言ってくれりゃあ
とっつと処女膜
ブチ破ってやったのによオ!」

ばっ!ばっ!ばっ!ばっ!

「お、お願いしますっ
これが終わったら
お家に帰して
ください!」

ずる、ずる、ずる、

「あく判った判った
家にでも土にでも
還してやるよ!」

「あく出るっ
中に出すわ
良いよな？」

「あっ！」

「あああっ そんな
うううう……」

「あ？
別に良いんだろ？」

「はい……
別に良いです……」

このカリキュラムにおいて
処女喪失は矯正効果を
明確には得られていない

いずれ女は処女を
誰かに捧げるものだ
処女を失った女は
むしろ開き直って
したたかになる

なので処女を
奪うかどうかは
担当職員の判断に
任されている





「はい終り！
ったく 無駄に
伸ばしやがって」

「意味ねえんだよ!!
馬鹿じゃねえの!？」

「あっ! あっ
あたしの……髪……
あたしの髪があ……」

「ずっと……
伸ばしてたのに……」

「お母様が毎日
綺麗に梳いてくれた
大事な髪なのに……」

「おうち帰る!!」

「あア？」

「……おうち……」

「おうち帰る！
おうち帰る！
チサおうちに
帰るううっ!!」

「なんでチサ
こんな所に居るの!?
チサおうち帰りたい!
痛いイヤ!
あんた嫌いっ!!」

「お母様に会いたい!
お父様に会いたい!!
おうちに帰るのおおっ!!」

「な〜にが
お父様だよボケ!」

「誰がお前をここに
ブチ込んだか
教えてやろうか!」

「え……?」

以上の内容を全て了承し

令和 7年10月16日

氏名 宝木 謙一

「ウツ……
お父様……?」

「あ……
あ……
そんな……」

「そんなア……!」

「そういうワケ
だからよお!!」

「デメエにもう
帰るおうちなんて
無エんだわ!!」

統計では
人格矯正センターへの
通報者の2割は
親族からの物である
特に世間体を気にする
職業や家柄の者が
手の付けられない子供を
施設へ送るのだ

びゅん!!

「あぐううっ!!」

「デメエの親父が
もう帰って来るなって」

はん、はん、はん

「なんならそこで死ねって
言うてんだよ!!」

「ざびっ!!」「ぎゃべっ!!」

ブ
ハ
ハ
ハ

「デメエみてえな
クズガキは
家族じゃ
無エってよ!!」

「だから俺は
デメエを
ブチ殺すんだよ!!」

ど
ち
ん
ど
ち
ん

スッ!!

びゅん!!

「あぐうううっ!!」

「死ね！ 死ね！」
「死ね！！」

「デメエに苦しめられた
全ての人の為
にここで死ね！！」

「うえ……
げほっ
うげえ……
げほっ……」

「あう……
あう……
ころひへ……」

「ころひへ……
くりゃしゃい……
もお……
楽に……
しへ……」

宝木チサ
施設への収容から
15日後に無事
人格の矯正が完了
しかし親族は彼女の
退所を拒否

その為 彼女の人格が
完全に崩壊し廃人とな
るまで処置は継続
される事が決定された

「じゃあなろ
チサちゃん！」

「また明日も
遊んでやるぜ！」

かくして3人の
人格矯正は
終わった

だが
矯正が必要な若者は
毎日のように施設へ
収容されて来る

我々は日夜
彼女らの社会復帰の
ために尽力している

キーン

バタン!

もしどこかで
人格の矯正が
必要な若者を
見かけたら

ためらわずに
通報して欲しい

我々施設職員が
徹底的に対象者を
調査し ふさわしい
カリキュラムの
用意が出来次第……

危険人格児童
再教育センター

通報完了

ご協力いただき
ありがとうございました。

彼女らを誘拐し
収容します



終



過激教育工場 終

著者
販売開始

切傷甲
2025年10月



■ブログ

<https://ci-en.dlsite.com/creator/4699>

■SNS

<https://x.com/kirikizu1>

■ご意見・ご感想など

https://odaibako.net/u/kirikizukoh_post